

【29-02】

急性膵炎の初期治療における予後判定因子としての Fluid Sequestration の重症度・予後との関連に関する検討

1. 研究の対象

2009年1月から2020年3月31日までに消化器内科で急性膵炎と診断された方

2. 研究目的・方法

目的：急性膵炎の早期予後判定因子として Fluid Sequestration (FS) の有用性について検討することです。

方法：研究担当者が、対象となる方の診療記録（カルテ）や画像・検査データなどの情報を基に調査・集計します。新たな診療や検査の必要はありません。

研究期間：2021年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

患者背景（年齢・性別・併存疾患・膵炎の成因）、重症度判定（厚労省急性膵炎重症度判定基準、APACHE II、Ranson、BISAP、CTSI、改定 Atlanta 分類）、FS の推移、治療内容、食事再開の時期、食事再開の内容、臨床経過の情報 等

4. 外部への試料・情報の提供

匿名化されている情報を Microsoft Excel で作成されたフォームに入力し、パスワードロックのかかるファイル形式のデータとして Eメールで代表施設である東京大学へ送ります。識別番号と患者の対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

東京大学医学部附属病院・消化器内科・中井陽介（共同研究代表者）

関東中央病院・外川修

東京高輪病院・平野賢二

東京警察病院・八木岡浩

日本赤十字社療センター・伊藤由紀子

三井記念病院・戸田伸夫

東芝病院・山本夏代

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることや他の研究機関への提供について患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

J R東京総合病院 消化器内科

住所：東京都渋谷区代々木 2-1-3

電話：03-3320-2210（代表）

担当者： 研究責任者 毛利 大（消化器内科 医長）

研究代表者：

東京大学医学部附属病院・消化器内科・中井陽介

-----以上